

自治体の課題、現状

本町は、公立中学校 1 校、生徒数689人で、14部活動が活動している。その内、運動部活動に参加している生徒数は360人、52.2%の生徒がスポーツに親しみ、地域クラブへの参加も同水準である。（令和 6 年 5 月 1 日現在）

少子化による生徒数減少が更に顕著となっていく数年後を見据え、生徒の多様なニーズに応えられるよう、自治体の枠をこえた、より広域的な協力体制の構築が課題である。

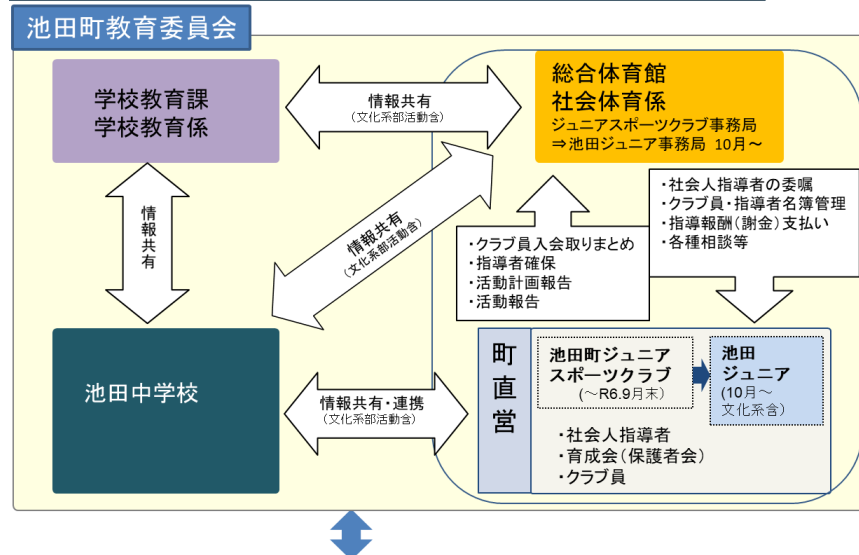
地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	1 校	全生徒数	689 人
域内の部活動数	14部	実施した地域クラブ数	14クラブ (内 1 クラブ合併 ・2 クラブ他町へ移籍)
全体の指導者数	50人	全体の運営スタッフ数	3 人
主な運営団体	地域スポーツクラブ（町営）		
主な種目	軟式野球、バレーボール、バスケットボール、卓球など		
平均的な活動回数	休日 4回/月 平日 2回/週	年間平均参加生徒実数	3 年：0.1人/クラブ 2 年：9.3人/クラブ 1 年：8.9人/クラブ
参加会費	1,000円/月	主な活動場所	各中学校施設 町管理体育施設

地域移行関連の取組、成果

- ・昨年度に引き続き「池田町中学校部活動改革検討委員会」を開催し、規約の改正・ガイドラインについて最終的な協議を行い、円滑なスタートに向けて体制を整備した。
- ・揖斐郡 3 町で「揖斐郡部活動地域移行協議会」を設立し、情報共有、課題の洗い出しなどがなされ、1 つの町でクラブ存続ができない 3 種目が揖斐郡合同クラブとして活動を開始した。
- ・令和6年度は、町独自の財源から補助として運営負担金を、各クラブに対し一律1万円を支給した。
- ・社会体育施設の優先予約を行い、施設使用料を減免し、保護者の負担軽減を図った。

運営体制図



池田町中学校部活動改革検討委員会

出典：池田町教育委員会

自治体の課題、現状

本町においては、2校の義務教育学校があり、生徒数526人で17部活（うち、運動系12部活）が活動している。現段階では、部活動、ジュニアクラブ（育成会による運営）、また、スポーツ少年団、それに部活動への体験入部を希望する学園の5,6年生の集合体を「北方学園クラブ」ととらえ、義務教育9年間の一貫した指導を目指している。

スポーツを通して、豊かな人間性を育成や、土、日、祝日における部活動の指導を社会人指導者、育成会に委ねていくこと、スポーツ少年団、及び町内の5,6年生が、体験できるようにすることが必要である。

地域スポーツクラブ活動等の概要

義務教育学校数	2校	全生徒数	526人
域内の部活動数	17部	実施した地域クラブ数	12クラブ
全体の指導者数	20人	全体の運営スタッフ数	1人
主な運営団体	総合型地域スポーツクラブ 民間事業者		
主な種目	野球、バスケ（男・女）バレー（男・女）、サッカー、陸上、剣道、卓球、ソフトボール、ソフトテニス、ダンス、		
平均的な活動回数	6回/月	年間平均参加生徒実数	3年：7人/クラブ 2年：7人/クラブ 1年：7人/クラブ
参加会費	各部で異なる（例） 野球7,000円/年	主な活動場所	北学園・南学園

地域移行関連の取組、成果

○取組としては、**指導者研修を実施**したり、県の育成研修会への案内をしたりした。指導者20名の内、11名が日本スポーツ協会等の指導者資格を保有している。指導者の指導の機会の確保するため、指導者への謝金の**上限を月4回分から6回分に増やし、土日、祝日への指導に、より対応**できるようにした。今年度は、教職員に兼職・兼業の指導者が7名登録した。現在、12部活の内うち、8部活が2名以上指導者がいるが、今後は、各部活動に**2名以上の指導者配置を目指す**。

○年に5回、計画的に部活動担当者会を行い、指導状況について**情報交流を行い、改善策の検討や指導について共通理解を図った**。また、部活動顧問や社会人指導者、保護者との連携を図るべく、三者が合同に集まり、年間の指導について、**共有理解を図る**ことができるようにした。

運営体制図



自治体の課題、現状

- ・当町は、生徒数、人口ともに横ばいの状態が続いているが、生徒の志向の変化により、近年、野球部、剣道部が廃部となり、部活動数及び加入者が減少している。
- ・地域移行の取組の現状は、令和3年度に協議会を行い、4年度から休日の活動として坂祝中クラブ活動を実施している。
- ・地域移行を進める上での課題は、指導者及びクラブ員の確保、継続的な活動体制の確保である。

地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	1校	全生徒数	208人
域内の部活動数	7部	実施した地域クラブ数	6クラブ
全体の指導者数	26人	全体の運営スタッフ数	7人
主な運営団体	町教育委員会		
主な種目	サッカー、男女バスケ、女子バレー、卓球、ソフトテニス		
平均的な活動回数	6～7回/月	年間平均参加生徒実数	3年：30人/クラブ 2年：30人/クラブ 1年：33人/クラブ
参加会費	サッカー：12,000円 男女バスケ：6,000円 卓球：2,000円 ソフトテニス：5,000円 バレー：7,600円 ※すべて/年	主な活動場所	坂祝中学校及び町内体育施設

地域移行関連の取組、成果

- ・休日の活動を部活動ではなく、**町に登録したクラブ**として活動を行う。その**登録や責任について教育委員会**が担い、指導については各クラブにおいて**登録された指導者**が担う。
- 特に指導者確保として力を入れた事項として、岐阜県において開催される**地域指クラブ導者育成研修会に参加を必須とし**、受講した指導者に対し**町が謝金を支払うこととした**。結果、現在26人が指導者登録をしており、**町からの謝金の支払いにより、保護者の経済的負担減少につながった**。

運営体制図

坂祝町教育委員会

- ・教育委員会の管轄として団体の登録を行う。
- ・活動については、保護者や地域指導者のもとで主に休日に、活動を行う。
- ・施設の利用料は学校だけでなく、町の体育施設も免除
- ・代表者を適宜行う。

坂祝中クラブ

坂祝中学校

- ・学校管理下での活動
- ・主に平日の放課後、顧問の元で指導を受ける。
- ・部活動登録を行う。
- ・公式戦などの予定調整

坂祝中部活動

連携

連携

連携

保護者会

自治体の課題、現状

- ・本町は中学校が1校のみの町である。人口の減少率は大きくないが、高齢化が進んでおり、特に中学生数はかなり減少している。
- ・以前から中学校の各部活動に地域指導者が参加し、顧問では難しい専門的な指導を行ってきた。
- ・中学生数の減少と、全員加入から任意加入へと変化したことが影響し、種目によっては人数不足のため休部を余儀なくされる可能性のある部がある。
- ・川辺スポーツクラブへ運営活動費をどの程度支援していけばよいか、町の財政と相談しながら決定していく必要がある。

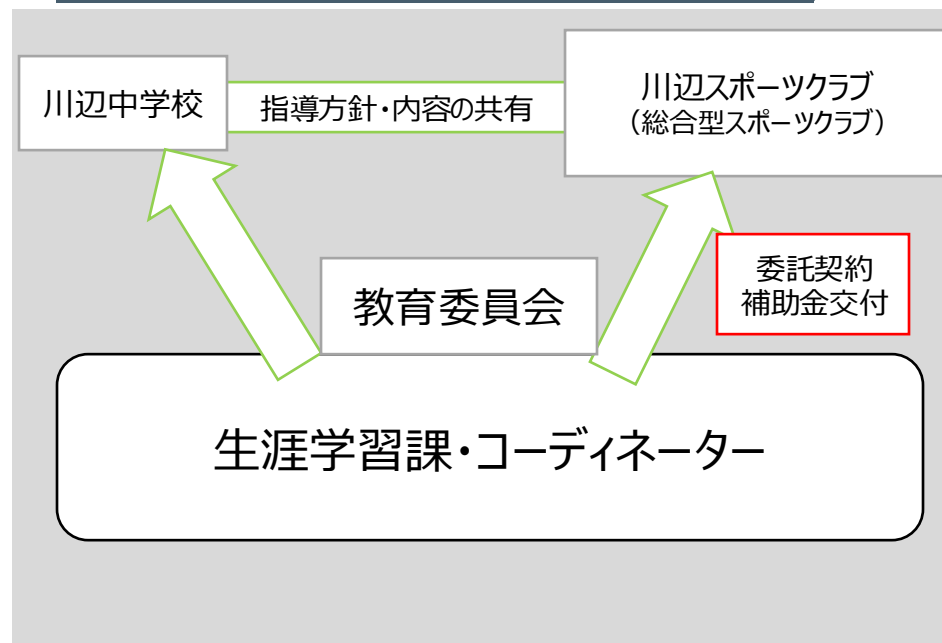
地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	1校	全生徒数	264人
域内の部活動数	9部	実施した地域クラブ数	1クラブ
全体の指導者数	25人	全体の運営スタッフ数	3人
主な運営団体	総合型地域スポーツクラブ 民間事業者		
主な種目	バドミントン		
平均的な活動回数	4回/月	年間平均参加生徒実数	3年：15人/クラブ 2年：22人/クラブ 1年：9人/クラブ
参加会費	3,800円/年	主な活動場所	川辺中学校

地域移行関連の取組、成果

- ・地域指導者は、部活動指導員の登録をし、**顧問が不在でも部活動ができる体制づくりに取り組み成果を上げた。**
- ・活動母体を川辺中学校から川辺スポーツクラブへ移行するための準備として、令和6年度は1部活動（バドミントン部）を、川辺スポーツクラブへ先行移行し、**問題点の洗い出しと解決**に取り組んだ。
- ・部活動指導員や地域指導者との信頼関係構築のため、コーディネーターが随時部活動の様子を視察し、指導者に対して、モラルの遵守や健康面への配慮について助言した。

運営体制図



自治体の課題、現状

当町には上麻生中学校、神測中学校の2校があり、全生徒数が59名、運動部活動は男女合わせて7部存在する。その中でも、地域移行できていない部活動が運動部だけで6部ある。

要因としては、少子化に伴う部員数の減少のほか、近年、競技志向の強い生徒は、他地域のクラブチームに加入するなど、学校部活動に加入しない傾向がある。また、地域指導者の確保が難しい部もあり、環境の整備が急務である。

地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	2校	全生徒数	59人
域内の部活動数	7部	実施した地域クラブ数	1部
全体の指導者数	2人	全体の運営スタッフ数	3人
主な運営団体	七宗町教育委員会		
主な種目	バドミントン		
平均的な活動回数	4回/月	年間平均参加生徒実数	3年：0人/クラブ 2年：5人/クラブ 1年：5人/クラブ
参加会費	2,000円/年	主な活動場所	神測中学校

地域移行関連の取組、成果

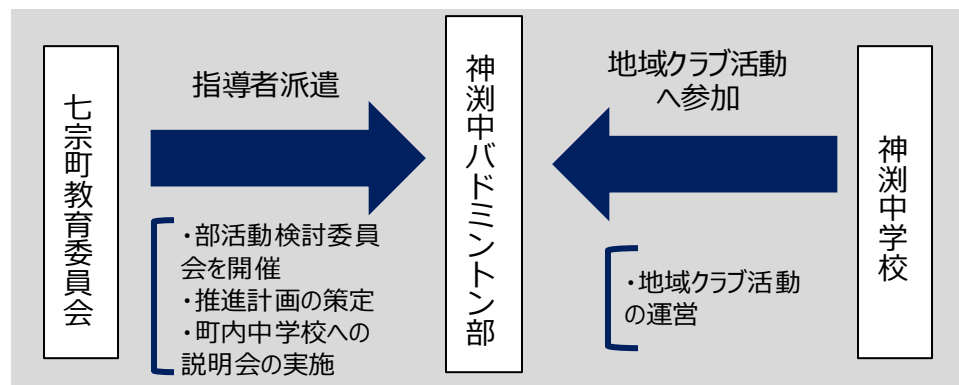
【取組】

- ①地域指導者保護者代表者会にて、地域クラブ指導者と保護者とが、共に情報交換することで、地域指導者の困り感に寄りそった支援を考える。
- ②地域クラブ指導者には、岐阜県主催の地域クラブ指導者育成研修会への参加を義務付け、地域指導者の指導力向上に取り組む。
- ③令和7年度の中学校統合に向けて、年に3回実施している七宗町立小中学校統合準備委員会にて、各学校の校長・教頭とも地域移行について協議し、よりよい地域クラブ活動に取り組む。

【成果】

- ①保護者とは、代表者会議で、指導者の確保、謝金の単価、鍵の管理についてなど、よりよい地域移行について一緒に考えることができた。
- ②現在の部員の状況、謝金の単価、学校との連携方法などについて、一緒に考えることができた。
- ③中学校統合に向けて、「七宗町小中学校統合推進委員会 学校運営方針部会」の中で地域クラブ活動について協議することができた。

運営体制図



自治体の課題、現状

町内2校に合計13部活動のうち、運動部活動が12部活動存在する。生徒数は令和6年度219人に対して、今後10年で半数の121人まで減少すると予想されている。さらに、部活動加入率も70%を下回っており、現時点で学校単独での部活動の維持が難しい種目が増えてきている。立地的に保護者の送迎やスクールバス等の対応がないと活動できない状況にある。これまで、地域指導者が少ないため、部活動顧問を中心とした部活動運営がなされていた。

地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	2校	全生徒数	219人
域内の部活動数	12部	実施した地域クラブ数	9クラブ
全体の指導者数	23人	全体の運営スタッフ数	23人
主な運営団体	八百津町地域スポーツクラブ		
主な種目	野球、サッカー、女子バレーボール、卓球（2校）、剣道、ソフトテニス（2校）、男子バスケットボール		
平均的な活動回数	4回/月	年間平均参加生徒実数	3年：12人/クラブ 2年：12人/クラブ 1年：12人/クラブ
参加会費	10,000円/年	主な活動場所	中学校

地域移行関連の取組、成果

・取組事項の概要

八百津町部活動地域移行検討会義を開催。関係団体代表者相互の地域移行に向けた方向性及び課題整理

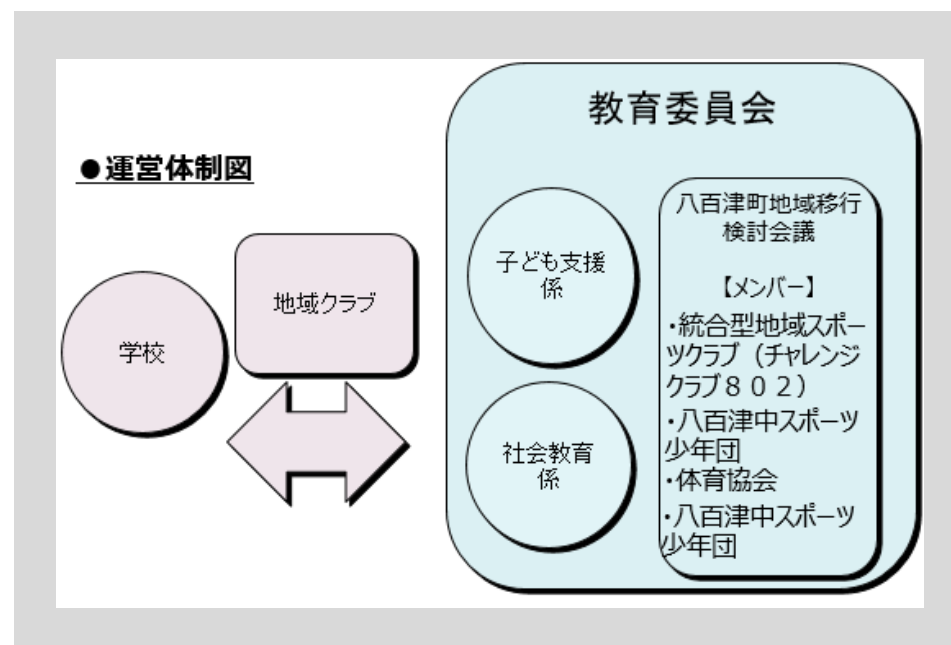
休日部活動を移行するための指導者の確保

・取組の成果、特に工夫した点等

すべての部活動において地域クラブ指導者を確保することができた。

地域クラブを導入したことにより、顧問の休日活動時間の時間外勤務を削減する事ができた。（部活動顧問時間外平均【R5】35時間→【R6】32時間）

運営体制図



自治体の課題、現状

本町には2つの中学校があり、部活動変遷の歴史はそれぞれである。平成29年3月に「一般社団法人スポーツリンク白川」が発足して以降、学校部活動と連携した地域クラブ活動の運営団体としてその役割を果たしている。今後は学校再編（中学校の統合）を視野に入れ、平日の活動を含めた部活動の地域移行について、本町の実情に即した内容で進める必要がある。統一的な謝金の在り方（財源の確保）、2つの中学校との連携（活動時間や活動場所など）が必要不可欠であり、運営団体となる一般社団法人スポーツリンク白川の運営体制強化が課題である。

地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	2校	全生徒数	137人
域内の部活動数	11部	実施した地域クラブ数	5クラブ
全体の指導者数	20人	全体の運営スタッフ数	5人（代表者）
主な運営団体	総合型地域スポーツクラブ		
主な種目	軟式野球、バスケットボール、バレーボール、剣道		
平均的な活動回数	平日：週に2回程度（1回2時間） 休日：週に1回程度（1日3時間）	年間平均参加生徒実数	3年：27人/クラブ 2年：20人/クラブ 1年：20人/クラブ
参加会費	クラブ年会費1,000円 各クラブ運営費（平均）3,000円/月	主な活動場所	白川中学校

地域移行関連の取組、成果

学校統合を見据え令和9年度から平日及び休日の活動を移行するための実証を行う。

① 地域移行コーディネーターの設置【体制の整備】

👉 コーディネーターを設置することで推進体制の整備を図る。

② スポーツリンクバスの運行（平日）【関係団体・分野との連携強化】

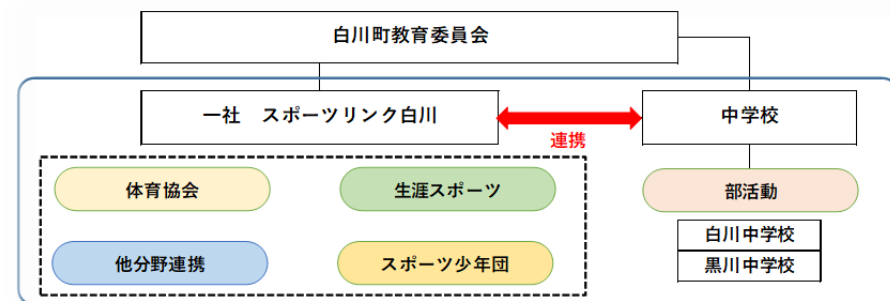
👉 佐見地区から通学する生徒について、スポーツリンク活動時の移動手段を確保する。休日は公共交通が利用できるようダイヤを改正

③ 地域指導者謝金の支払い【指導者の質の保障・量の確保】

👉 地域指導者の確保を図るとともに、謝金の在り方について実証を行う。

※指導者ごとの指導回数、指導時間等を把握し、今後の持続可能な謝金体系の参考とする。

運営体制図



白川中学校	平日放課後	平日17時以降 及び休日
1 軟式野球（男子）	部活動	クラブ活動
2 女子バレー（女子）		
3 男子バスケット（男子）		
4 女子バスケット（女子）		
5 剣道（男女）		
6 吹奏楽（男女）		
7 ブレイズ（女子ソフト）		
8 ネクスス（男子バレー）		
指導体制 ・教員＋地域指導者（20人）		

黒川中学校	平日・休日
1 ソフトテニス（男女）	部活動
2 バドミントン（男女）	
3 剣道（男女）	
4 文化（男女）	

指導体制 ・教員のみ

自治体の課題、現状

- ・御嵩町の生徒数は昭和63年の1,070人をピークに減少の一途をたどっており、令和6年度には449人となっている。10年後の令和16年には400人を割り込むと見込まれる。
- ・地域移行の取組の現状は、令和4年より段階的な地域移行を進めており、土日どちらか1日を保護者クラブで活動することから始まり、現在は土日の活動を地域クラブもしくは保護者クラブで活動している。
- ・地域移行を進める上での課題は部員数の減少によりチーム編成が困難になっている種目があることと、専門的な指導者がいないために、満足できる指導が受けられない種目があることである。

地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	3校	全生徒数	449人
域内の部活動数	18部	実施した地域クラブ数	9クラブ
全体の指導者数	17人	全体の運営スタッフ数	12人
主な運営団体	みたけスポーツ・文化倶楽部（総合型地域スポーツクラブ） 教育委員会学校教育課		
主な種目	軟式野球、バレーボール、バスケットボール、ソフトテニス、卓球		
平均的な活動回数	4回/月	年間平均参加生徒実数	3年：5人/クラブ 2年：5人/クラブ 1年：5人/クラブ
参加会費	2,000円/年	主な活動場所	各中学校

地域移行関連の取組、成果

- ・部員不足や指導者不在の課題を抱えた種目について、町内の3つの中学校で合同で活動することを推奨し、部活動の合同クラブ化を進めた。指導者のいる学校を活動場所とすることで、部員不足と専門的な指導を受けられる環境を整えることができた。
- ・指導者に謝金を支給することで、指導者が指導に携わる責任意識を持つとともに、よりよい指導を心がける指導者が増えた。
- ・地域クラブ化の説明会や指導者向けの講習会を積極的に行い、保護者や部活動顧問、指導者等と共通理解しながら地域クラブ化を進めることができた。

運営体制図

